

第22回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年11月22日（火）午後1時30分～午後4時30分
2. 開催場所：東京大学本郷キャンパス環境安全研究センターアネックス棟26室
（ハイブリット開催）
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、五十嵐 悠、榎本 敦、小嶋光明、小田啓二、川島恒憲、中村美和、浜田信行、福土政広、笠井 篤、辻本 忠、橋本 周、高橋賢臣、秋吉優史、阪間 稔
4. 議事
 - (1) 第2分科会からの進捗報告
古渡副委員長より、第2分科会における論点、検討状況、今後のスケジュールについて説明がなされた。
 - 第2分科会ではエックス線被ばく事故での線量評価における現状と課題、解決の道筋、今後の対応方針案について検討している。
 - 線量の推定、分布、線種や測定など、課題となり得る6つの視点が抽出された。
 - 今後は抽出された課題について、より具体的な検討を進める。委員から以下の意見・質問があった。
 - ◇ 医療被ばくにおける診断と治療を区別して整理すると良いのではないか。
 - ◇ 事故後の線量評価における詳細な再構築が課題となるのではないか。
 - ◇ 生物学的線量評価についても触れるべきではないか。
 - ◇ 衣服の有無による違いなども解説等にまとめる際は検討項目に含める。
 - ◇ 線量の評価が困難となっている理由や背景、専門家としての今後の論点や開発ポイントをまとめ、平易に解説、公表してほしい。
 - (2) 第3分科会からの進捗報告
山口幹事より、第3分科会における検討課題、今後のスケジュールについて説明がなされた。
 - 第3分科会での検討項目と活動方針について、検討項目が多岐にわたっていることから、日鉄の事故にフォーカスすべきとの意見があった。
 - 情報の水平展開もテーマとされているが、第1・2分科会での検討内容の現場への普及も論点として扱いたい。
 - 経過報告書で提示された各委員からのアイデアに対して関連情報を収集し検討を進めている。委員から以下の意見・質問があった。
 - ◇ 日鉄の事故例のみにフォーカスせず、個別、具体的な論点整理になりすぎないよう、幅広く検討すべきではないか。
 - ◇ 議論のアウトプット方法については、第1・2分科会とは異なってもよいのではないか。
 - ◇ 第3分科会はWGの全体としての課題のとりまとめや発信手法についても検討すべきではないか。
 - ◇ 過去の国内外の事故におけるステークホルダーの動きや、各種の公的な報告書、提言等をレビューしつつ、参考となる点や課題を抽出するプロセスで進

めると良いのではないか。

(3) 第1分科会からの進捗報告

飯本委員長より、第1分科会における検討成果について説明がなされた。

- まとめの方針として、分野や装置の特徴別に事例を紹介し、各分野特有あるいは共通する視点での論点整理、課題解決に向けた対応方針の提案をする。
- 主要な論点として、エックス線作業主任者の位置付け、装置関係者への教育、装置の届け出や安全管理について、などが挙げられた。
- 当面は、エックス線作業主任者、安全教育、届け出と点検、安全文化等の観点からより深い議論を進める。

委員から以下の意見・質問があった。

- ◇ 医療における被ばくを扱う際には、被ばく対象が医療従事者と患者では論点が異なるので、報告をまとめる際にはその点に留意すべきである。
- ◇ 安全管理にて、経営層の関与についても検討すべきではないか。

(4) 今後の進め方について

飯本委員長より、本WGの今後の活動方針について説明がなされた。

- 本会合での各分科会の経過報告に基づいて、各分科会で議論を継続する。
- 令和5年度に開催される学会イベント（企画行事、学会研究発表会等）にて、最終の成果報告をすることを予定している。
- 学会誌での解説、資料、報告等にて、本WGの活動成果を公表することを予定している。
- 抽出された課題の解決に向けて、専門家集団としての学会の今後の活動に対して、WGとして何らかの提言をしたい。

委員から以下の意見・質問があった。

- ◇ WG設立の契機となった日鉄での事故の背景・経緯を、当事者へのヒアリング等を通じて詳細に調査し、具体性をもって検討すべきとの意見があったが、飯本委員長より、当該事故の原因や経緯の一部は公開情報から入手できるので、事故調査委員会の機能をもたない本WGとしては新たに、また個別に入手すべき情報はないと判断しているとの回答があった。

(5) その他

- 第21回WGの議事要旨を確認し、原案のまま承認された。
- 第23回WGの開催は別途事務局内で日程調整することとした。

以上